

平成23年度  
小樽商科大学

# 公開講座・公開授業 案内



2011年

## 目 次

I	ご挨拶	・ ・ ・ ・ ・	P 1
II	公開講座のご紹介		
1	公開講座について	・ ・ ・ ・ ・	P 2
2	受講手続きについて	・ ・ ・ ・ ・	P 3
3	公開講座概要	・ ・ ・ ・ ・	P 4
III	公開授業（通常授業公開講座）のご紹介		
1	公開授業について	・ ・ ・ ・ ・	P 7
2	受講手続きについて	・ ・ ・ ・ ・	P 12
3	受講にあたっての注意とお願い	・ ・ ・ ・ ・	P 15
4	授業内容	・ ・ ・ ・ ・	P 16
	受講申込書	・ ・ ・ ・ ・	P 41
	平成 23 年度行事予定	・ ・ ・ ・ ・	P 42
	学内案内図	・ ・ ・ ・ ・	裏表紙

### I ご挨拶

大学の役割・使命が教育と研究にあるということは自明ですが、これに地域貢献が加えられるようになったのは、ここ 10 年あまりのことです。地域へ向けた公開講座・授業は、この 3 つの役割・使命を統合した営みだといえます。研究によって得られた知見を教育に盛り込み、人間や社会にとって必要と思われるメッセージや様々な知の技法を、身近な地域の人々へ伝えようとするのです。

本学は、このような意味をもつ公開講座をすでに昭和 35 年に開講し、早い時期から、自らの拠って立つ地域を強く意識してきました。最近の 10 年間は、語学やスポーツの講座、テーマ別講座、室蘭工業大学との合同公開講座、市町村に出かけて行う出前講座、小樽・札幌での高校生を対象とした講座、そしてビジネス創造センターによる地域に密着した講座など、様々な取り組みを行ってきました。これらはいずれも、地域と大学が交流し、お互いが活性的でより高めあう効果をもたらしました。

最近ひんぱんに、「知の世紀」とか「知識基盤社会」という言葉が聞かれます。市民一人々が、知を磨いて深い判断力を養い、そして知を楽しむ、そんな時代が到来したことを感じさせます。本学の公開講座・授業は、多様なメニューを用意して、このような時代の要請に応えようとしています。この公開講座・授業に市民の皆様がぜひ積極的に参加され、私たちと知的刺激を共有し、知を楽しむひとときを過ごされますよう、願っております。

小樽商科大学教育担当副学長

大 矢 繁 夫

## Ⅱ 公開講座のご紹介

### 1 公開講座について

本学では、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携を深めるために、毎年、一般市民の方々のための公開講座を開催しています。今年度前期は本学言語センターより、語学4講座を用意しました。

#### (1) 2011年度開設講座

講座名	開催日・時間	時間	募集定員
外国人による集中英会話講座	4月20日～6月29日 毎週水曜日 (5月4日は除く)	18:30-20:00	20名
外国人による集中中国語講座	4月13日～6月29日 毎週水曜日 (5月4日, 6月15日は除く)	18:30-20:00	20名
外国人による集中ロシア語会話講座	4月18日～6月20日 毎週月曜日	18:30-20:00	15名
外国人による集中韓国語講座	5月13日～7月15日 毎週金曜日	18:30-20:00	15名

※講座は受講料 7,200 円、全 10 回です。

※講座の概要については、P4～6 をご覧ください。

※初日に開講式（講座開始 10 分前～）を行います。時間までに会場へお越しくください。

#### (2) 会場

小樽商科大学内 2 号館で開催します。ただし、韓国語講座は駅前プラザ「ゆめぼーと」で開催します。2 号館及びゆめぼーとの場所は最終ページの学内案内図でご確認ください。

#### (3) 募集期間

4 月 1 日（金）から講座開始の 3 日前（休日を挟んだ場合は、その前日）まで受付します。

申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。

(4) その他

①修了証書

出席率 50%以上で公開講座修了証書を発行します。

②自家用車で来学される方へ

受講期間内のみ利用可能な臨時入構許可証を発行しますので、受講申込書に車両ナンバー等をご記入ください。(ゆめぼーには駐車場はありません。)大学内への入構許可証です。講座の開講曜日以外は使用できません。

臨時入構許可証をフロントガラスから視認できる位置に掲示の上、指定された駐車場をご利用ください。

③附属図書館の利用について

一般市民の方はどなたでも、本学の図書館を利用することが可能です。ご利用を希望される場合は ID カードを作成する必要がありますので、図書館カウンターで所定の手続きをお取りください。

## 2 受講手続きについて

受講申込書 (P.41) に各講座の受講料を添えて、申込期間内に下記申込先でお申し込みになるか、または、現金書留で郵送してください。お電話でのお申し込みはできません。

なお、一旦お支払いただいた受講料は払戻しできませんので、ご注意ください。

### 問い合わせ・申込先

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

小樽商科大学学務課学部教務係

(事務棟1階・学生センターカウンター)

TEL : 0134-27-5242 FAX : 0134-27-5243

e-mail:gakubu@office.otaru-uc.ac.jp

受付時間 8:30~17:00 (4月1日~4月5日)

8:30~19:30 (4月6日~)

(いずれも土日祝日を除きます。)

## 3 公開講座概要

外国人による集中英会話講座	
<p><b>ENGLISH LANGUAGE AND CULTURE</b></p> <p>This course is aimed at improving students overall communication skills. Class work will consist of pair and group discussions. Students will be given topics each week centered on current issues, related to both Japan and overseas countries.</p> <p>Students will be expected to both engage in conversation with other students, as well as give short speeches and presentations in class, based on their own experiences and interests. Aspects of the cultures of England, Australia and New Zealand will also be taught and discussed in class. Students will be expected to have at least intermediate level English ability in order to participate in the course. Students will also be expected work on and give a short group presentation to other class members.</p>	
<p>英語：言語と文化</p> <p>このコースの目的は、参加者の全般的なコミュニケーションスキルを上達させることです。クラスでは、ペアやグループでのディスカッションを行います。日本や外国に関する今日的な問題を中心に毎週参加者にトピックを与えます。参加者は、他の参加者との会話に参加するとともに、自分自身の経験や関心に基づいてクラスで短いスピーチやプレゼンテーションを行うことが期待されます。イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの文化の諸相について教授されるとともに、それについてのディスカッションも行います。コースに参加する方は最低でも中級程度の英語能力が期待されます。また、参加者は他のクラスのメンバーと一緒に作業を行ったり短いグループ・ディスカッションを行うことが期待されます。</p>	
<p>担当講師： ジェイミー・ケンプ</p>	
<p>開催場所： 2号館言語センターマルチメディアホール</p>	
<p>受講料： 7,200円</p>	<p>毎週水曜日 18時30分～20時00分</p>
<p>募集定員： 20名</p>	<p>4/20、4/27、5/11、5/18、5/25、6/1、6/8、6/15、6/22、6/29 全10回（5/4除く）</p>

外国人による集中中国語講座	
<p>この講座では、初心者から中級者へ向けレベルアップを目的とし、すぐに使える中国語を教えます。初心者には発音(四声)・漢字の読み・簡単な会話から始めます。中級者は聞き取り・すぐに使える実用会話へと進みます。</p> <p>中国語会話を通して、その国の文化、習慣などを理解し、日本の社会に少しでも貢献していただければ幸いです。最近、中国の観光客がたくさん小樽に来ています。自分の習った言葉がどこかで通じれば、きっと喜びに変わるでしょう。その喜びを勉強の原動力にすれば、レベルアップできることと信じております。</p> <p>10回の集中講義を実施します。楽しい時間を過ごせますようお待ちしております。</p>	
担当講師： 高 翔 (コウ ショウ)	
開催場所： 2号館マルチメディアホール	
受講料： 7,200円	毎週水曜日 18時30分～20時00分
募集定員： 20名	4/13、4/20、4/27、5/11、5/18、5/25、6/1、6/8、6/22、6/29 全10回(5/4、6/15除く)

外国人による集中韓国語講座	
<p>初心者向け。読み・書き・発音等の基礎から始めます。</p> <p>文字(ハングル)の読み書きができること、 日常の挨拶や買い物などの簡単な会話ができることが目標です。</p>	
担当講師： 宣 憲洋 (ソン ホンヤン)	
開催場所： 駅前プラザ「ゆめぽーと」	
受講料： 7,200円	毎週金曜日 18時30分～20時00分
募集定員： 15名	5/13、5/20、5/27、6/3、6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15 (全10回)

外国人による集中ロシア語会話講座	
<p>ロシア語の文字や文法の初歩をすでに学んでいる方を対象にします。ロシア語に関する最も基礎的な知識しか前提としていませんので、ぜひ、躊躇することなく積極的に参加してください。</p> <p>講座の基本的な目的は、会話を中心にロシア語の基礎的な知識を耳から身につけていただくことです。</p> <p>授業では、簡単な文を繰り返しながら、基礎的な単語と基本的な文法を習得するとともにロシア語の音に慣れていただきます。また、コミュニケーションの実践を行いながら、日常表現や様々な状況で役に立つ表現を学んでいただきます。会話の練習は講師と行うだけでなく、受講生同士の会話練習も行う予定です。さらに、言葉の練習だけではなくロシアやロシア人についても随時お話をしていきます。</p>	
担当講師： アレクサンドル・ボリーソヴィッチ・スペヴァコフスキー	
開催場所： 小樽商科大学 2 号館	
受講料： 7,200 円	毎週月曜日 18 時 30 分～20 時 00 分
募集定員： 15 名	4/18、4/25、5/2、5/9、5/16、5/23、5/30、6/6、6/13、6/20 (全 10 回)

### Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

#### 1 公開授業について

小樽商科大学では、地域の生涯学習ニーズに応えるために、**夜間主コースの正規授業**を公開授業として一般市民の方々に開放します。この機会に、本学でのキャンパスライフを体験しながら、本学の授業を皆様のブラッシュアップ、スキルアップにお役立てください。

##### (1) 講座名

「小樽商科大学通常授業公開講座」（通称：公開授業）

試験、レポートの提出等は行わず、授業視聴のみの参加となります。単位、資格等は取得することができませんのご注意ください。

##### (2) 2011 年度通常授業公開講座一覧

###### ★ 前期科目（4月～7月末開講）

時間割		開講科目名	担当教員	募集人数	内容	科目区分	
月	6	17:45-19:15	経済思想史	江頭 進	制限なし	P16	経済学科
			社会保障法	片桐由喜	制限なし	P17	企業法学科
	7	19:25-20:55	応用ミクロ経済学	中村健一	10名	P17	経済学科
			刑法	小島陽介	制限なし	P18	企業法学科
火	6	17:45-19:15	管理会計概論	籾本智之	5名	P18	商学科
			オペレーションズ・リサーチ	山本 充	制限なし	P19	社会情報学科
	7	19:25-20:55	金融システム論Ⅱ	中浜 隆	5名	P19	商学科
			憲法Ⅰ	小倉一志	制限なし	P20	企業法学科
水	6	17:45-19:15	言語文化論	高野寿子他	若干名	P20	専門共通科目
			民法Ⅰ	林 誠司	制限なし	P21	企業法学科
	7	19:25-20:55	経済学入門	中村健一	10名	P21	経済学科
			商法Ⅰ	南 健悟	制限なし	P22	企業法学科
木	6	17:45-19:15	経済と統計	寺坂崇宏	制限なし	P22	経済学科
			市場システム論Ⅰ	高宮城朝則	5名	P23	商学科
			簿記原理	坂柳 明	5名	P23	商学科
			プロジェクトマネジメント基礎	深田, 平沢	制限なし	P24	社会情報学科
	7	19:25-20:55	知的財産法	才原慶道	制限なし	P24	企業法学科
			計画数学	佐藤 剛	制限なし	P25	社会情報学科
金	6	17:45-19:15	民事手続法	河野憲一郎	制限なし	P25	企業法学科
			経営システム基礎	阿部, 持田	制限なし	P26	社会情報学科
	7	19:25-20:55	生活と健康	中川喜直	若干名	P26	共通科目
			情報と職業	渡邊文彦	制限なし	P27	社会情報学科



### Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

#### ★ 通年科目（4月～7月末、夏休みを挟んで10月～翌年2月初。週2回の授業）

時間割	開講科目名	担当教員	募集人数	内容	科目区分
火曜日 6 講目（17:45-19:15） 木曜日 7 講目（19:25-20:55） 週 2 回開講	ドイツ語 I	鈴木将史	5 名	P27	外国語科目
		副島美由紀			
	フランス語 I	尾形弘人	若干名	P28	外国語科目
	中国語 I	嘉瀬達男	5 名	P28	外国語科目

#### ★ 夏学期科目

時間割	開講科目名	担当教員	募集人数	内容	科目区分
夏学期①	歴史学 I	荻野富士夫	10 名	P29	共通科目
夏学期②	心理学 II	杉山成	若干名	P29	共通科目

夏学期① 9月1日（月）～9月8日（月）

夏学期② 9月9日（木）～9月16日（木）

授業時間 月～金は6講目（17:45～19:15）、7講目（19:25～20:55）。

土曜日は4講目（14:30～16:00）、5講目（16:10～17:40）、6講目（17:45～19:15）。

日曜日は授業ありません。

### Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

#### ★ 後期科目(10月～翌年2月初開講)

時間割			開講科目名	担当教員	募集人数	内容	科目区分
月	6	17:45-19:15	社会思想史Ⅱ	西永亮	若干名	P30	共通科目
			現代企業管理論Ⅰ	金 鎔基	5名	P16	商学科
			経済法	岡本直貴	制限なし	P30	企業法学科
	7	19:25-20:55	経営学原理	小田福男	5名	P31	商学科
情報処理基礎			木村泰知	制限なし	P31	社会情報学科	
火	6	17:45-19:15	国際市場論	穴沢 眞	5名	P32	商学科
			国際取引法	中村秀雄	制限なし	P32	企業法学科
			計画科学	石井利昌	制限なし	P33	社会情報学科
	7	19:25-20:55	基礎数学	兼岩龍二	若干名	P33	共通科目
行政法Ⅰ			石黒匡人	制限なし	P34	企業法学科	
水	6	17:45-19:15	哲学	久保田顕二	5名まで	P34	共通科目
			社会学Ⅰ	宝福則子	若干名	P35	共通科目
	7	19:25-20:55	市場システム論Ⅱ	近藤公彦	5名	P35	商学科
			経営管理論	加賀田和弘	5名	P36	商学科
木	6	17:45-19:15	言語学	山田久就	若干名	P36	共通科目
			法学	多木誠一郎	制限なし	P37	企業法学科
			コンピュータネットワーク論	三谷和史	制限なし	P37	社会情報学科
	7	19:25-20:55	商法Ⅱ	河森計二	制限なし	P38	企業法学科
知識科学基礎			芳澤 聡	制限なし	P38	社会情報学科	
金	6	17:45-19:15	国際法	佐古田 彰	制限なし	P39	企業法学科
			統計科学 ※1	小笠原春彦	制限なし	P39	社会情報学科
	7	19:25-20:55	社会情報入門	阿部, 中村	制限なし	P40	社会情報学科

※1 統計学の入門コース以上を修得済であること。

(3) 開講期間

前期科目	平成23年4月6日（水）～平成23年7月27日（水）
通年科目	平成23年4月6日（水）～平成23年7月27日（水） 平成23年10月3日（月）～平成23年2月7日（火）
夏学期科目	①平成23年9月1日（木）～平成23年9月8日（木） ②平成23年9月9日（金）～平成23年9月16日（金）
後期科目	平成23年10月3日（月）～平成23年2月7日（火）

※ 前期科目は週1回授業で15回、通年科目（外国語科目）は週2回授業で60回、夏学期科目は日曜日以外の連続する上記日程で平日2回分、土曜3回分の計15回の授業を受けることになります。

※ 講義は教員の都合により休講になる場合がありますので、受講前に必ず、本学学生と同様に、学生連絡室で休講情報を確認の上、受講されるようにお願いします。（電話問合せ不可）

なお、休講情報は携帯電話やパソコンのインターネットで確認が可能です。

サイトアドレス <http://www.camjam.jp/>

※ 各科目の授業開始日は、オリエンテーション時間割(P.12～14)をご覧ください。

(4) 授業時間

	4 講目	5 講目	6 講目	7 講目
時 間	14:30～16:00	16:10～17:40	17:45～19:15	19:25～20:55

※1回の授業時間は90分です。

※4、5講目は夏学期の土曜日のみです。

(5) 講義室

履修学生数の増減により、**講義室は変更になる場合があります**。変更になった場合には、学生連絡室に掲示しますので、確認の上、受講されるようにお願いします。

(6) 受講方法

受講申込手続きをされた方には、公開講座受講証を発行しますので、来学する際は必ず携行され、授業時間中は受講証を机上の見やすいところに置いて受講してください。

(7) 募集人数

2011 年度通常授業公開講座一覧（P7～9）の募集人数の欄をご覧ください。申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。

(8) 受講料

前期科目・後期科目・夏学期科目・・・1 科目につき 9,200 円

外国語科目（通年・週 2 回）・・・1 科目につき 22,200 円

※ 受講料にはテキスト代、教材費等は含まれません。

(9) 申し込み期間

前期科目・通年科目 平成 23 年 4 月 6 日（水）～4 月 15 日（金）（土日を除く）

後期科目 平成 23 年 10 月 3 日（月）～10 月 14 日（金）（土日祝日を除く）

（申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。）

\* 夏学期科目は、4 月 6 日から講義開始 3 日目前までとします。

(10) その他

① 修了証書

通常授業公開講座では、単位は修得することはできませんが、出席率 70%以上で通常授業公開講座修了証書を発行いたします。学生センターの学部教務担当カウンターに出席簿を置いておりますので、受講前又は受講後に毎回サインをしてください。

② 自家用車で来学される方へ

受講期間内のみ利用可能な臨時入構許可証（駐車証）を発行しますので、受講申込書に車両ナンバー等をご記入ください。

駐車場所は 3 号館講義棟前となります。構内の通行の妨げとなる場所への駐車はお止めください。駐車時は臨時入構許可証をフロントガラスから視認できる位置に掲示してください。

③ 附属図書館の利用について

一般市民の方はどなたでも、本学の図書館を利用することが可能です。ご利用を希望される場合は ID カードを作成する必要がありますので、図書館カウンターで所定の手続きをお取りください。

## 2 受講手続きについて

### (1) 受講の試聴期間

受講を希望される方に、授業の概要を把握し、受講する科目を決定する際の便宜を図るため、本学学生のオリエンテーション期間を試聴期間として提供します。

#### 試聴期間：

前期 平成 23 年 4 月 6 日（水）～4 月 12 日（火）

後期 平成 23 年 10 月 3 日（月）～10 月 7 日（金）

この期間は、学生と一緒にガイダンスを聞いて、授業を選択するかどうかの参考にしてください。

オリエンテーションは 1 回の時間を 40 分として、10 分の休憩をはさみ、1 講に同じ内容のオリエンテーションを 2 回実施します。

試聴券をお渡ししますので、**試聴前に必ず、学生センター学部教務担当カウンターで受付**をしてください。

### ●●● オリエンテーション（ガイダンス）時間割 ●●●

#### 【前期】

曜日	1 回目 17:45～18:25 2 回目 18:35～19:15		1 回目 19:25～20:05 2 回目 20:15～20:55	
	科目名	講義室	科目名	講義室
4 月 6 日（水）	言語文化論	406	経済学入門	105
	民法 I	213	商法 I	407
4 月 7 日（木）	経済と統計	303	知的財産法	401
	市場システム論 I	413	計画数学	407
	簿記原理	213		
	プロジェクトマネジメント基礎	401		
4 月 8 日（金）	民事手続法	406	生活と健康	105
	経営システム基礎	413	情報と職業	303
4 月 11 日（月）	経済思想史	105	応用ミクロ経済学	211
	現代企業管理論 I	104	刑法	407
	社会保障法	406		
4 月 12 日（火）	管理会計概論	105	金融システム論 II	303
	オペレーションズ・リサーチ	401	憲法 I	406

【後期】

曜日	1回目 17:45～18:25 2回目 18:35～19:15		1回目 19:25～20:05 2回目 20:15～20:55	
	科目名	講義室	科目名	講義室
10月3日(月)	社会思想史Ⅱ	470	経営学原理	105
	経済法	406	情報処理基礎	413
10月4日(火)	国際市場論	105	基礎数学	104
	国際取引法	213	行政法Ⅰ	413
	計画科学	401		
10月5日(水)	哲学	105	市場システム論Ⅱ	413
	社会学Ⅰ	104	経営管理論	303
10月6日(木)	言語学	407	商法Ⅱ	401
	法学	413	知識科学基礎	407
	コンピュータネットワーク論	401		
10月7日(金)	国際法	303	社会情報入門	104
	統計科学	406		

★ 夏学期科目はオリエンテーションがありませんので、各科目初日の6講目(17:45～19:15)を試聴日とします。講義室は、カウンターまたは掲示室でご確認ください。

科目名	試聴日	教室
歴史学Ⅰ	9月1日(木)6講目	未定(後日掲示)
心理学Ⅱ	9月9日(金)6講目	未定(後日掲示)

★ 外国語科目はオリエンテーションを行わずに、初回から授業を行います。初回の授業を試聴日とします。

科目名	試聴日	教室
ドイツ語Ⅰ	4月7日(木)7講目	LL
フランス語Ⅰ	4月7日(木)7講目	406
中国語Ⅰ	4月7日(木)7講目	MH3

※ なお、講義室は変更になる場合がありますので、学生連絡室でご確認ください。

(2) 受講申込

①受講を希望される場合は、受講申込書に必要事項を記入して、**顔写真**（縦 3 cm×横 3cm、受講証用）1 枚に**受講料**を添えて、募集期間内に学部教務担当カウンターでお申し込みになるか、または、現金書留で郵送してください。

なお、一旦お支払いいただいた受講料は返納できませんので、ご注意ください。

②受講料納付確認後に、領収書をお渡しいたします。また、通常授業公開講座受講証及び車で通学される方には臨時入構許可証を用意いたしますので、次回の授業に出席される前に学部教務担当カウンターにお寄りください。

(3) 問い合わせ・申込先

〒047-8501

小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号

小樽商科大学学務課学部教務係

（事務棟 1 階・学生センターカウンター）

TEL : 0134-27-5242

E-mail : [gakubu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:gakubu@office.otaru-uc.ac.jp)

受付時間 8 : 30～19 : 30（土日祝日を除く）

### 3 受講にあたっての注意とお願い

(1) 受講生の呼び出し等

授業中その他、受講生の呼び出し等には、対応できかねますので、あらかじめご了承ください。また、授業中は、携帯電話の電源をお切りください。

(2) 受講生の義務

受講生は、受講にあたり本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないよう努めていただくとともに、授業担当教員の指示に従ってください。

(3) 受講の停止

受講生が義務に違反し、本学秩序を乱し、又は受講生としてふさわしくない言動があった場合には、受講を停止することもあります。

(4) 事故・盗難等

学内における事故・盗難等について、大学側では責任を負いかねますので十分気をつけてください。

(5) 損害賠償

受講生が本学の施設、設備等を破損したときは、その損害を賠償しなければならないことがあります。



#### 4 授業内容

科目名	経済思想史			ガイダンス日	4/11	前期
担当教員	江頭 進			募集人数	制限なし	
開講時間	月曜 6 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
この授業では、市場経済に関する経済学者の思想を、経済学の黎明期から現代に至るまで概観し、われわれの社会の構造を理解する一助とすることを目的としている。特に本年度は 5 人の経済学者の思想に焦点をあて、共通性と相違性を検討する。				高哲男編『自由と秩序の経済思想』,名古屋大学出版社。		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
第0講 オリエンテーション				私語、携帯電話の着信音等常識に反する行為をした場合は退場もありうるので注意すること。		
第1講 ジョン・ロックとアダム・スミス-市場経済の黎明-						
第2講 カール・マルクス-資本主義の問題点						
第3講 ジョン・ケインズ-国家と市場の関係の転換-						
第4講 フリードリッヒ・ハイエク-自由の意味-						

科目名	現代企業管理論 I			ガイダンス日	10/3	後期
担当教員	金 鎔基			募集人数	5 名	
開講時間	月曜 6 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
本講義では、企業管理のうち人の管理、すなわち人材を採用し、育て活用する管理にかかわる主要トピックを扱う。人事、雇用管理に関わる基本原理を理解することが目標である。毎回の講義は、現実に基づく事例がまず提示され、それを分析するための理論的コンセプトの紹介やその応用へと進む。				基本教材として、講義用スライドのコピーを事前に配布する。そこに丹念にメモを取っておくのが重要である。より深い理解を目指す学生のため、テーマごとの参考文献をその都度、知らせる。		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
教育と就職				理由の如何を問わず、欠席 4 回以上は不可にする。		
人材開発						
内部昇進と外部採用						
評価と報酬管理						
モニタリングとインセンティブ						
非正規職問題						
労使関係の主要トピック						

科目名	社会保障法			ガイダンス日	4/11	前期
担当教員	片桐 由喜			募集人数	制限なし	
開講時間	月曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>本講義は、わが国の社会保障法制の基本的な仕組みを説明する。そのさい、制度創設の背景、立法趣旨などもあわせて述べる。</p> <p>上記説明に加えて、社会保障制度に関連する裁判例を紹介し、制度運用にあたって、どのような問題が存在するかも指摘する。</p> <p>本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行社会保障制度の基本的な仕組みを説明できる。</li> <li>・ 現代日本社会における社会保障制度関連問題を指摘できる。</li> </ul>				<p>岩村正彦・菊池馨実『目で見える社会保障法 第4版』（有斐閣、2007年）</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会保障総論</li> <li>2 社会保険</li> <li>3 公的扶助</li> <li>4 社会福祉－権利擁護を中心に－</li> </ol>				<p>履修に際し、必要な法律が掲載されている立法を持参、もしくは法律をコピーなどして講義に望むこと。</p>		

科目名	応用ミクロ経済学			ガイダンス日	4/11	前期
担当教員	中村 健一			募集人数	10 名	
開講時間	月曜 7 講	教室	211	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>私たちの行動（働くことや学ぶことなど）は、期せずして私たちが相互に関わりあい、社会的関係を形成するという役割を担っています。そしてこのような社会的関係の多くは経済的な側面を持っており、その分析にはミクロ経済学が有用です。この講義では、ミクロ経済学を応用して労働に関わる諸現象を分析する手法を紹介します。</p>				<p>特定の教科書は用いません。参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<p>(1) 労働市場と資源配分</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最適な意思決定</li> <li>2. 企業と家計の資源配分</li> <li>3. 労働市場と政府</li> <li>4. 経済発展と就業構造</li> </ol> <p>(2) 賃金決定の経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 労働市場のインセンティブ問題</li> <li>2. 人的資本・効率賃金・自己選抜</li> <li>3. 労働市場の戦略的相互依存</li> <li>4. シグナリング・チーム生産・労使交渉</li> </ol>				<p>講義に関するさまざまな連絡や資料の配付を、以下のウェブサイト（ホームページ）を用いて行ないます。</p> <p><a href="http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/">http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/</a>          また各種問い合わせは  <a href="mailto:kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp">kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp</a> をお願いします。</p>		

科目名	刑法	ガイダンス日	4/11	前期	
担当教員	小島 陽介	募集人数	制限なし		
開講時間	月曜 7 講	教室	407		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b>		<b>2.授業内容</b>			
<p>今年度の本講義では、刑法総論の内容に加えて、刑法各論および刑事訴訟法についても、重要な内容に絞って概説します。裁判員制度の開始により、刑事裁判は「参加する」ものとなりました。その基本的な原則を知っておくことは、決して損になるものではありません。講義では、可能な限り具体例を挙げ、また最近の話題を織り込み、関心を持てるように工夫します。</p> <p>本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刑事法の基本的概念や原則を自分の言葉で説明できる。</li> <li>・ 社会に生起する問題につき、刑事法の観点から眺めて自らの態度を決定できる。</li> </ul>		<p>刑法・刑事訴訟法の基本概念          刑法総論—犯罪一般に当てはまる基本原則          刑法各論—それぞれの犯罪構成要件の成立要件          刑事訴訟法—刑事手続の流れと被疑者・被告人の諸権利</p> <p><b>3.使用教材</b>          講義では毎回レジュメおよび判例一覧を配布します。          教科書および参考書については、初回オリエンテーションで説明するほか、図書館で配布の授業ガイドも参照してください。          小型のものでいいので、六法を毎回必ず持参してください。</p> <p><b>4.履修上の注意事項</b>          詳細については、初回オリエンテーション時に説明します。</p>			

科目名	管理会計概論	ガイダンス日	4/12	前期	
担当教員	籾本 智之	募集人数	5 名		
開講時間	火曜 6 講	教室	105		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b>		<b>2.授業内容</b>			
<p>組織が目的を遂行するためには、経営資源の他に、経営システムが必要となる。多数の成員からなる組織では、目的を共有するだけでも容易ではないし、複数の職能ないし組織単位間の調整やコンフリクト解消が必要となるし、そのためには経営環境にマッチしたあるいは戦略的な管理会計システムが根幹をなしていなければならない。本講義では、組織の目的遂行のために必要な管理会計システムのいくつかを学ぶことにする。学び方としては、レクチャーの他に、ケースに基づいた双方向的な授業を行う。</p> <p>設備投資の意思決定          戦略的コストマネジメント          分権制組織の管理会計システム</p>		<p>管理会計の目的と体系          経営戦略と経営計画の策定          短期利益計画と CVP 分析          予算管理          差額原価収益分析</p> <p><b>3.使用教材</b>          教科書：上埜 進，島 吉伸，窪田 祐一，吉田 栄介，杉山 善浩『管理会計の基礎—理論と実践』税務経理協会，第4版，2010年。          その他適宜資料を配付する。</p> <p><b>4.履修上の注意事項</b>          第 1 回目の時に詳細なガイダンスを行います。</p>			

科目名	オペレーションズ・リサーチ			ガイダンス日	4/12	前期
担当教員	山本 充			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 6 講	教室	401	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）は、合理的な意思決定を行うための科学的な手法の学問体系であり、様々な最適化の手法があり、数式モデルにより最適解を求めて行く方法が基本となっている。本講義では下記に示したORの代表的な手法の理論・考え方を例題や演習問題により修得することを目的とする。講義の方法は、手法の解説、問題の解法を講義し、演習問題や課題を各自が解くことで進める。</p>				<p>教科書：長畑秀和著『OR へのステップ』共立出版</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<p>1.在庫管理：発注点法、定期発注法 2.階層分析法（AHP） 3.線形計画：図解法、シンプレックス法、輸送問題</p>				<p>・授業内容の区切りの良い時点で小テストを行うので、小テストの実施回数の70%以上を受けていることが単位取得の条件となる。 授業資料などは E-learning 上にて提供する。</p>		

科目名	金融システム論Ⅱ			ガイダンス日	4/12	前期
担当教員	中浜 隆			募集人数	5 名	
開講時間	火曜 7 講	教室	303	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>(3) 生命保険</b>		
<p>授業の目的は、おもに現代の保険制度と保険業の概要について学習し、理解することにあります。</p> <p>方法は、口述と板書で行い（教科書は使用しません）、必要に応じて授業中に資料を配布します。</p> <p>本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な保険用語と保険の基礎理論を理解し、説明できる</li> <li>・保険制度と保険業の概要を理解し、説明できる</li> </ul>				<p>主要な保険種目、契約者配当、生命保険業などについて解説します。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>(4) 保険経営</b>		
<p>(1) 保険一般 リスクとリスク処理手段、保険の仕組み、保険商品の特徴、保険の分類、保険の機能などについて解説します。</p> <p>(2) 損害保険 損害保険の要素、主要な保険種目、損害保険業について解説します。</p>				<p>保険会社の業務・財務、会社形態、募集制度などについて解説します。</p>		
<b>3.使用教材</b>				<b>(5) 保険制度改革と保険業の動向</b>		
				<p>保険制度改革（規制緩和・自由化）と保険業の近年の動向について解説します。</p>		
<b>3.使用教材</b>				<b>3.使用教材</b>		
				<p>教科書は使用しません。</p>		
<b>4.履修上の注意事項</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
				<p>上記の記載事項に変更などがある場合、オリエンテーションの時に伝えますので、履修希望者はオリエンテーションにも出席してください。</p> <p>教室の収容人数を上回る履修希望者がいる場合、履修制限を行います。</p>		

科目名	憲法 I	ガイダンス日	4/12	前期
担当教員	小倉 一志	募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 7 講	教室	406	
		受講料	9,200 円	
<b>1. 授業の目的・方法</b> 本講義では、「基本的人権」の領域を中心に扱う。テキスト（下記参照）の内容に沿いながら、それぞれの規定が持つ意味内容を学説・判例ともからめつつ、明らかにしていきたい。 本講義の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下のとおりである。 ・憲法、なかでも「基本的人権」の各論点に関する学説・判例を正確に理解し、説明できること		<b>3. 使用教材</b> 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第5版〕』（岩波書店・2011年）、笹川紀勝ほか編『憲法判例特選』（敬文堂・2010年）及び、六法（出版社、サイズは問いません）。		
<b>2. 授業内容</b> 0. オリエンテーション 1. 基本的人権の原理 2. 基本的人権の限界 3. 包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権（1）-内心の自由 5. 精神的自由権（2）-表現の自由 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 国務請求権と参政権 9. 人身の自由 ＊詳細な授業内容（授業計画）については、第1回目のオリエンテーションでお示しする予定です。		<b>4. 履修上の注意事項</b> ・「夜間主の憲法 I」は、半期 2 単位であることから、同一領域を扱う「昼間の憲法・基礎 I・基礎 II」の半分の授業時間しか与えられていません。従って、「夜間主の憲法 I」では扱えない部分も生じてしまうことを予めご了承ください。 ・講義中の私語、携帯電話の使用など、他の受講者の迷惑になる行為については、厳しく対処します。迷惑行為を繰り返す者に対しては、成績評価を行いません。 ・テキスト・判例集・六法は毎回持参すること。 ・講義内容の予習・復習をきちんと行うこと。「基本的人権」に関する基礎的な知識は高校までの政経などで修得済みの学生が多いと思いますが、この授業は『大学』の『専門科目』として開講されるものです。努々（ゆめゆめ）油断なさらぬように。		

科目名	言語文化論	ガイダンス日	4/6	前期
担当教員	高野 寿子 他	募集人数	若干名	
開講時間	水曜 6 講	教室	406	
		受講料	9,200 円	
<b>1. 授業の目的・方法</b> コミュニケーションの道具である言語とその背景にある文化について勉強します。現代の国際化と情報化の急速な発展は、全く異質な文化を持った個人や集団が交流・接触する機会を飛躍的に増大させ、その結果、相互の理解や合意の形成が、これまで以上に複雑かつ困難なものとなってきています。このような状況の中で、世界のさまざまな言語と文化について理解を深めていくことは、大変重要な課題となっています。本授業では、各国語と各国文化を専門とする複数の教員が講義を担当し、多種多様な言語文化を学んでいきます。		<b>2. 授業内容</b> ・オリエンテーション（高野寿子） ・Unit1 『ハンデル創製原理に表れた朝鮮朝初期の文化』（宣憲洋） ・Unit2 『英語のリズムと英文の意味』（大島稔） ・Unit3 『百年戦争に見るイギリスとフランスの切っても切れない因縁』（高橋純） ・Unit4 『ドイツ的思考の様々』（副島美由紀）		
		<b>3. 使用教材</b> 適宜プリント等を配布します。		
		<b>4. 履修上の注意事項</b> 全 Unit での課題提出または受験と、2/3 以上の出席が、単位認定の前提条件となります。		



科目名	民法 I	ガイダンス日	4/6	前期
担当教員	林 誠司	募集人数	制限なし	
開講時間	水曜 6 講	教室	213	
			受講料	9,200 円
<b>1.授業の目的・方法</b> 本講義は、民法の基本理念、並びに、民法第 1 編総則及び第 3 編第 5 章不法行為に関する法制度、各種の法的概念の概説を行い、これらについての知識、及び、法的思考力を涵養することを目的とする。		<b>3.使用教材</b> ・教科書：山田卓夫他著『民法 I－総則』（有斐閣 S シリーズ・第三版補訂） ・参考文献：『別冊ジュリスト No.195 民法判例百選 I 総則・物権 第六版』（有斐閣）及び『別冊ジュリスト No.196 民法判例百選 II 債権 第六版』（有斐閣）		
<b>2.授業内容</b> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 民法の基本原則、権利能力 第 3 回 意思能力・行為能力 第 4 回 法人、物 第 5 回 法律行為総説、法律行為の客観的有効要件 第 6 回 心裡留保、虚偽表示 第 7 回 錯誤 第 8 回 詐欺・強迫 第 9 回 代理権、代理行為、無権代理 第 10 回 無権代理（承前）、表見代理 第 11 回 無効・取消、条件・期限、期間 第 11 回 取得時効、消滅時効 第 12 回 時効の中断・停止、時効の援用 第 13 回 一般的不法行為の成立要件 第 14 回 不法行為の効果 第 15 回 特殊不法行為		<b>4.履修上の注意事項</b> ・教科書・六法は各自必ず購入し、毎回持参すること（但し、初回のガイダンスはこの限りではない）。 ・法学を履修していることが望ましい。 ・民法総則は、今後法律科目（特に私法）を学習していく上での基礎となる分野であり、今後法律科目の履修を予定する者は全員履修することが望ましい。 ・本講義は学生各自の予習を前提とする。		

科目名	経済学入門	ガイダンス日	4/6	前期
担当教員	中村 健一	募集人数	10 名	
開講時間	水曜 7 講	教室	105	
			受講料	9,200 円
<b>1.授業の目的・方法</b> 経済学を初めて学ぶみなさんに、平易にその内容を紹介する講義です。経済学の基本的な考え方や分析手法を説明することで、経済学に興味を抱いてもらう事を目的とします。 講義では、消費者、生産者および政府から構成される経済主体の個々の経済行動に焦点を当てて分析をする「ミクロ経済学」の入門的内容を講義します。		4. 個別から社会へ 5. 競争均衡 6. 競争均衡と社会的効率性		
<b>2.授業内容</b> (1) 経済学的な考え方 1. 資源配分問題 2. 資源配分問題の重要用語 3. 社会的資源配分の基礎知識 (2) 市場経済社会 1. 経済的な意思決定 2. 消費の意思決定 3. 生産の意思決定		<b>3.使用教材</b> 特定の教科書は用いません。参考文献は講義内で適宜紹介します。		
		<b>4.履修上の注意事項</b> 講義に関するさまざまな連絡や資料の配付を、以下のウェブサイト（ホームページ）を用いて行ないます。 <a href="http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/">http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/</a> また各種問い合わせは <a href="mailto:kenakamu@res.otaru-uc.jp">kenakamu@res.otaru-uc.jp</a> にお願ひします。		

科目名	商法 I			ガイダンス日	4/6	前期
担当教員	南 健悟			募集人数	制限なし	
開講時間	水曜 7 講	教室	407	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> この講義は、会社法について扱います。現代の経済社会にとって欠かせない会社を法制度の側面から解説します。この講義では、第一に、法制度そのものを説明した上で、なぜそのような規整となっているのかについて重点を置きます。第二に、そうした法制度を踏まえて、法的問題が生じた場合、どのように処理されるのかということ判例及び学説を解説します。 具体的には、会社の法的概念や会社法の存在意義、会社の設立、株式、機関、計算規定や組織再編について講義をしていきます。また、折に触れて、企業買収の問題やコンプライアンスといった問題についても解説したいと思います。 この講義を通して、学生の皆さんに獲得が期待される能力は、以下のものだと考えています。 ①会社法制度について基礎的な知識を理解する。 ②会社法に関連する法的問題が生じた場合に、上記①を踏まえた上で、その法律関係を考えることができる。 なお、この講義は 2 単位科目であるとの性質上、法制度の詳しい内容は一部割愛せざるを得ないため、特に会社法の基本的な構造の把握に努めてください。				<b>2.授業内容</b> I.会社法総論—会社の法的意義、会社法の存在意義 II.会社の設立—設立方法、設立に関する責任 III.株式—株主の権利義務、株式の種類・譲渡 IV.会社の機関—株主総会、取締役・取締役会、監査役等 V.その他—資金調達、会社の計算、組織再編  <b>3.使用教材</b> (1) 教科書：落合誠一『会社法要説』（有斐閣、2010 年） (2) 判例集：江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選』（有斐閣、2006 年） (3) その他講義ではレジュメを配布します。  <b>4.履修上の注意事項</b> 会社法は改正が頻繁にあるため、最新版の六法を必ず持参してください。また、基本的な民法の知識を有していることが望まれます。その他詳細はガイダンスでお話しします。		

科目名	経済と統計			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	寺坂 崇宏			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	303	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> この授業は、経済分析で使われる統計的手法のごく基本的な内容を確実に習得することを目的とする。授業の方法であるが、各授業の前半は講義形式で進める。後半は演習形式にして、その日の内容に関する練習問題を解いてもらう時間を設ける。				第 7 回 指数 —物価指数と関連して— 第 8 回～第 9 回 国内総生産とは何か？ 第 10 回 インフレーションとデフレーション 第 11 回 2 変数データの整理：共分散、相関係数の計算 第 12 回 2 変数データの整理：相関係数を使った分析 第 13 回 回帰分析 第 14 回 データの季節変動について 第 15 回 まとめ		
<b>2.授業内容</b> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 1 変数データの整理：平均、標準偏差の計算 第 3 回 1 変数データの整理：加重平均の計算、度数分布表の作成 第 4 回 1 変数データの整理：ヒストグラムの作成 第 5 回 ローレンツ曲線の作成、ジニ係数の計算 第 6 回 所得格差について				<b>3.使用教材</b> 教員の配布する資料に基づいて授業を進める。参考文献については授業時間内に適宜紹介する。  <b>4.履修上の注意事項</b> 定規、電卓を用意すること。		

科目名	市場システム論 I			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	高宮城 朝則			募集人数	5名	
開講時間	木曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> この授業は流通・商業の基本的な役割や機能についての理解を深めることを目的とします。今年度は商品流通システムのパフォーマンス、とりわけその外部性（社会性、文化性など）を中心として検討していきます。トピックとして取り上げるのはコンビニエンス・ストアと「買物難民」と呼ばれる問題です。毎回の授業において、検討資料の内容について受講者に担当を割り当てて報告してもらいます。その後クラス全体でディスカッションを行い、問題への理解を深めます。また学期の最後には、この授業のテーマ・トピックにかかわるレポートを作成してもらい、その報告をクラスで行ってもらいます。レポートの作成・報告は受講者数に応じて個人またはグループ単位で行ってもらう予定です。				<b>3.使用教材</b> テキストは指定しません。次の書籍を基本参考文献とします。 ・鷲巣 力『公共空間としてのコンビニ』朝日選書(2008) ・杉田聡『買物難民—もうひとつの高齢者問題』大月書店(2008) ・竹内稔『コンビニのレジから見た日本人』商業界(2008) ・李・白石・田中『文化としての流通』同文館(2007)		
<b>2.授業内容</b> ・流通・商業の基本的役割と機能の理解 ・流通のパフォーマンス ・コンビニエンス・ストアの諸側面 ・買物難民問題				<b>4.履修上の注意事項</b> 第1回目のオリエンテーションで授業の進め方を詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。		

科目名	簿記原理			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	坂柳 明			募集人数	5名	
開講時間	木曜 6 講	教室	213	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 営利活動を営む会社は、様々な事業活動を行って、利益獲得を目指しているが、この授業の目的は、そのような事業活動の結果を計数的に把握する手段としての簿記を学習することである。簿記を学習する上では、所与の会計上の指針を前提にした会計処理（仕訳処理）を、素早く正確にできるかどうかの問題になる。そこで授業では、プリントを元に講義し、そのプリントに練習問題を多く取り入れ、会計処理に慣れてもらいたい。この授業によって、会社の事業活動の結果をどのように把握するのが、わかるようになる。				①：簿記の必要性、②：仕訳、勘定、③：個別論点（現金、当座預金、手形取引、掛取引、商品売買取引、帳簿の締切、経過勘定、引当金等）の解説、④：様々な帳簿、試算表と精算表、貸借対照表と損益計算書の解説		
<b>2.授業内容</b> 扱うトピックとして、以下のものを考えている。どのトピックをどの程度掘り下げるかは、授業の進度による。なお、練習問題やそれに関連する議論を、ある程度網羅的に盛り込まざるを得ないため、この授業では、配布プリントが多くなる（1回あたり、A4で5～10枚）。				<b>3.使用教材</b> 久野光朗編、『新版 簿記論テキスト』、同文館、2007年。 他の文献は、授業で紹介する。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 授業が難しい、あるいはやさしいと感じた人は、適宜、市販の簿記の問題集、参考書等で知識の補充、確認、先取り学習を行ってください。 2.でも述べたように、授業中の配布プリントが多くなることが予想されるため、プリントを読むのが面倒な人には、この授業は勧めません。		



Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	プロジェクトマネジメント基礎			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	平沢尚毅／深田秀実			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	401	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 現実社会は、人々が「何かことを成す」ことによって動いています。人を動かし、目的を達成するための知識は、本を読んだり授業を聞くだけでは身につかず、自分で積極的に活動し、プロジェクトに参加しなければ、得ることができません。 本授業では、参加者のグループワーク（擬似プロジェクトへの参加）を通じてプロジェクトマネジメント知識の体得を目標に置いています。 この講義では、受講生同士の授業時間以外のスケジュール調整やリーダーシップの発揮に「真剣に」取り組むことが求められます。				第 1 回 ガイダンスグループ分け 第 2-5 回 プロジェクトマネジメントの基礎技能 第 6 回 実施計画に関するプレゼンテーション 第 7-10 回 プロジェクト運営のための基礎技能 第 11 回 中間報告プレゼンテーション 第 12~14 回 プロジェクト終結のための基礎技能 第 15 回 最終プレゼンテーション		
<b>2.授業内容</b> 受講者は数人程度のグループに分かれ、Web サイト要件開発に関する調査の企画、実施、まとめ、発表などの各段階でグループでの議論と作業を行い、その経過を授業時間で報告してもらいます。また、各グループの発表や報告を通じて「プロジェクトマネジメント」について考察し、個人レポートを提出することも義務づけられます。				<b>3.使用教材</b> 必要に応じ、資料、シートを配布。参加者が準備しなければならないものもあるが、その都度指示します。		
<b>4.履修上の注意事項</b> 他の参加者の迷惑になるので、安易な気持ちで履修届けを出さないこと。必ず、オリエンテーションに参加すること。また、基本的な情報リテラシーは必要ですので、事前に準備しておくこと。						

科目名	知的財産法			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	才原 慶道			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 7 講	教室	401	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> いわゆる知的財産法のうち、著作権法を取り上げます（他の知的財産法についても、必要に応じて、言及することはあります。）。 この授業の目的は、著作権法の概要を知ることによって、小説、音楽、絵画、映画、コンピューター・プログラムなどの著作物が、どのように保護されているのかを理解することです。 方法は、講義によります。				5 著作権の制限規定 （その中でも、特に私的使用と引用を中心に） 6 存続期間 7 職務著作 8 著作者人格権としての同一性保持権		
<b>2.授業内容</b> 1 著作物性（創作的表現） 2 依拠 3 類似性 4 法定の利用行為				<b>3.使用教材</b> 特に指定しません。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 授業には、著作権法が掲載されている最新の六法（判例付きのものは、試験では持ち込むことができませんので、注意してください。）を持参してください。 また、毎回出席するよう心掛けてください。		

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	計画数学			ガイダンス日	4/7	前期
担当教員	佐藤 剛			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 7 講	教室	407	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 計画科学関連分野を学ぶうえで必要となる行列、行列式、微分、積分等の基礎知識を習得することを目的として、その意味や解法等について講義する。				<b>3.使用教材</b> [教科書] 水本久夫：「微分積分と線形代数の基礎」、培風館		
<b>2.授業内容</b> 1) ベクトルと行列 2) 行列式 3) 微分法 4) 不定積分と定積分 5) 偏微分法 6) 微分方程式				<b>4.履修上の注意事項</b>		

科目名	民事手続法			ガイダンス日	4/8	前期
担当教員	河野 憲一郎			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 実体私法上の権利を実現する手続である判決手続、民事執行手続、民事保全手続のうち、 <b>特に、民事執行手続に重点を置いた授業</b> をし、この分野についての体系的知識とこれにもとづく判例・文献の処理能力を身に着けることを目的とします。 <b>授業は、〈講義〉と〈討論〉を交えて行ないません。</b> 具体的には、教員の方で手続についての簡単な概説を加えた後、第5回目の授業以降ぐらいからは、学生の皆さんによる報告と討論を中心とします。そこでは、 <b>下記3の使用教材を基礎にレジュメを作成してきてもらい、これにもとづく報告（と討論）をしていただく</b> 予定です。				<b>3.使用教材</b> 中野貞一郎『民事執行法』（青林書院、新訂第6版、2010年）および伊藤眞＝上原敏夫＝長谷部由起子『民事執行・保全判例百選』（有斐閣、2005年）を教科書として指定します。		
<b>2.授業内容</b> 第1部 判決手続（狭義の民事訴訟手続）の概略 第2部 民事執行手続 第1章 導入 第2章 執行手続の主体 第3章 強制執行手続の開始と進行 第4章 金銭執行 第5章 非金銭執行 第6章 担保権実行手続及び換価のための競売				<b>4.履修上の注意事項</b> (1) <b>公開講座での履修を考慮しておられる方</b> は、この授業が、参加者による討論を中心に構成されることをお含みおきください。討論に際しては、①民法についての <b>基本的な理解</b> が必要不可欠です。また、② <b>こちらから問題についての答えを教えることはいたしません</b> （判例・通説等については、教科書に書かれているはずで、それらの知識を駆使して議論をすることにより、知識の定着と応用能力の獲得を図るのが、授業の狙いだからです）。 (2) 履修を予定者は、初回のガイダンスに「必ず」出席のこと。		

科目名	経営システム基礎			ガイダンス日	4/8	前期
担当教員	持田泰昭/阿部孝太郎			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 企業における経営システムの仕組みや活用などに関する基礎を学ぶことを目的とする。前半では、主にコンピュータを利用した情報システムに着目する。後半では、組織論を中心とした経営学の基礎を学ぶ。その際、資料として何回か映画等を用いる。				(4)ネットワークシステム LAN, C/S システム, インターネット (5)情報システムやインターネットの安全性 ・社会的問題, 脆弱性 ・セキュリティ向上策 後半) ・組織の形態(官僚制, 事業部制など) ・リーダーシップ ・集団の意思決定 ・情報化と組織		
<b>2.授業内容</b> 第1回目：オリエンテーション 前半) (1)情報システムとは ・情報通信技術(ICT), ネットワーク形態など, 企業と情報システムを取り巻く環境の変化 ・情報システムの役割や利用形態の変遷と進化 (2)情報システムの構築 ・エンドユーザと情報システム部の役割や関係 ・基幹業務システムと個別システム (3)コンピュータ(特にパソコン)の構成と利用方法 全体構成, ハードウェア, ソフトウェアの階層				<b>3.使用教材</b> 前半) 資料やプリント等をほぼ毎回配付する。 後半) ビデオやプリントを適宜提示。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 前半) 資料やプリントの配付は原則として講義時間帯のみとする。 後半) 社会情報入門(夜間主・阿部担当部分)と教材が一部重なるが、本科目は経営学を中心とする。		

科目名	生活と健康			ガイダンス日	4/8	前期
担当教員	中川 喜直			募集人数	若干名	
開講時間	金曜 7 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 国内外における数万人を対象にした医学・疫学研究によると、適度な運動習慣を持つ人は、心血管疾患や糖尿病など疾病の罹患リスクが低下し、寿命が延びることが報告されていることなどから、運動は人々の健康をコントロールする重要な役割を担っていることが知られている。また、バランスの良い栄養や食事量を調整することにより生活習慣病は減少することが明らかになっている。本講義では、学生の現在から将来に亘って健康で活発な社会生活を生き抜くために身近な健康の諸問題を取り上げ、その疾病予防と健康づくりの方法について講義をする。				第5章 太る、痩せる、体脂肪のメカニズム 第6章 からだの構造と生理機能 第7章 健康と運動・スポーツ 第8章 救急法, 応急処置, 怪我の予防 第9章 風邪・免疫と体力 第10章 寿命と健康 第11章 環境と健康 第12章 働く人々の健康 第13章 メンタルヘルス 第14章 公衆衛生 第15章 母子保健		
<b>2.授業内容</b> 第1章 オリエンテーション(概要説明)、「身体と精神の健康と学生生活」 第2章 飲酒・喫煙と健康 第3章 食生活(朝食抜き、コンビニ弁当は良いか?) 第4章 エネルギー代謝、基礎代謝、カロリー				<b>3.使用教材</b> パワーポイントの資料を配付する。また、講義ではDVDなども活用し、PCを使った教材によって理解を深める。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> ・出席は毎回とる ・講義内容の順番が入れ替わることもある		

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	情報と職業			ガイダンス日	4/8	前期
担当教員	渡邊 文彦			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 7 講	教室	303	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> この科目は、社会と情報の講座に含まれると共に、教職科目です。 情報技術の発達は、現代社会のあらゆる分野に影響を与えている。仕事の内容も従来とは変わり、情報技術との関わりを無視することは出来ません。この科目では、情報技術と職業の関わり、情報に関わる職業人の在り方や職業観、勤労観などについて学びます。 また、高等学校の教科「情報」の担当教員となるため、キャリア教育と情報教育の観点から倫理観などについて学びます。				6 情報社会における勤労観・職業観 7 情報社会の進展と倫理観 8 情報社会における勤労形態の変化 9 情報社会における「光と陰」 10 最近の雇用問題を考える。		
<b>2.授業内容</b> 1 情報社会の進展と職業 2 情報化と雇用の変化 3 情報化とオフィス環境の変化 4 情報処理産業と情報処理技術者 5 情報処理とシステム開発				<b>3.使用教材</b> プリントを用意する。参考文献は、その都度紹介する。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 教職科目であることから出席と礼節を重視する。		

科目名	ドイツ語 I			ガイダンス日	なし	通年
担当教員	副島美由紀/鈴木将史			募集人数	5 名	
開講時間	火曜 6 講,木曜 7 講	教室	LL	受講料	22,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> ドイツ語 I は「会話」「文法」「生活文化の紹介」に配慮した総合教科書（CD付き）を使って週 2 回（火・木）の授業を行ないます。文法は 1 年をかけてゆっくりと進み、会話練習、作文練習を豊富に織り込みながら、総合的なドイツ語力の向上を目指します。また、折に触れてドイツの文化・風俗を紹介し、ヨーロッパ文化への理解も深めていきます。外国語の学習は、あくまで能動的な学習態度が重要です。受講者には、受身にならず、自分から口を開き、自発的なドイツ語でのコミュニケーション練習が求められます。語学の学習には王道はなく日々の勉強が大切となりますが、本来は楽しいものです。これから 1 年、ドイツ語を積極的に楽しく勉強していきましょう。				<b>2.授業内容</b> 1-4 週：【文字と発音】【あいさつ】【動詞の現在人称変化】【数字】 5-8 週：【名詞の性、各変化】【所有・否定冠詞】 く 9-12 週：【時刻】【疑問詞】 13-16 週：【曜日・月・季節】【前置詞】【話法の助動詞】 17-20 週：【現在完了】【副文】【過去形】 21-24 週：【受動態】【zu 不定詞】 25-28 週：【形容詞】【再帰代名詞】など		
				<b>3.使用教材</b> 『シュトラッセ・ノイ』（新野守弘他著、朝日出版社）		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 火曜と木曜の授業は連動しており、各曜日もれなく出席すること。		

### Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	フランス語 I	ガイダンス日	なし	通年	
担当教員	尾形 弘人	募集人数	若干名		
開講時間	火曜 6 講,木曜 7 講	教室	406		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b>		<p>フランス語の基礎的な運用能力（話す、聞く、読む、書く）の養成を目指します。口、耳、目、手を総動員して練習に取り組んでください。初めて学ぶ言葉ですから間違えるのは当たり前。大いに間違いを繰り返しながら、少しずつ着実に定着させていきましょう。</p>			
<b>2.授業内容</b>		<p>テキストは次から成っています。</p> <p>1) 会話：ごく短い簡単で実用的な会話で、挿絵から想像できる具体的な場面で、実際に使われる表現を学びます。</p> <p>2) 読み方：英語よりずっと規則的な発音の規則を順に基礎から学びます。</p> <p>3) 文法：必要最低限の基本的な文法を、常にその前に出てくる会話文をもとにして学んでいきます。</p>			
		<p>4) 書き方：フランス語独特の筆記体を習得しましょう。</p> <p>5) コラム：フランス人の生活や習慣の紹介</p> <p>皆でわいわいやりながら、しかしポイントでは集中して、フランス語という新しい世界を楽しみましょう。</p>			
		<p><b>3.使用教材</b></p> <p>Marie-Emmanuelle Muramatsu 著『漫画の国のレア』、駿河台出版社</p>			
		<p><b>4.履修上の注意事項</b></p> <p>辞書については追って指示する。</p>			

科目名	中国語 I	ガイダンス日	なし	通年	
担当教員	嘉瀬 達男	募集人数	5 名		
開講時間	火曜 6 講,木曜 7 講	教室	MH3		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b>		<p>基本的な中国語の運用能力の習得を目的とします。読み、書き、話し、聞く練習を重視し、特に基礎文法に則った運用力と語彙の充実をはかります。</p> <p>学習の順序としては、まず発音の方法を習得し、基本文型を学びながら語彙を増やし、簡単な表現で言いたいことが伝えられることを目標とします。教科書に従って練習を続けていけば、自然に身に付くことでしょう。ただし口を大きく開けて動かし、体に覚えこませる必要はあります。</p>			
<b>2.授業内容</b>		<p>教科書は文章、例文、練習問題によって構成されています。履修状況に応じて、応答練習や作文などを適宜取り入れる予定です。主な文法項目は以下の通り。</p>			
		<p>1 名詞述語文、形容詞述語文</p> <p>2 動詞述語文、主述述語文</p> <p>3 数詞と所有、所在</p> <p>4 時間と完了や経験の表現</p> <p>5 前置詞、語気詞、副詞など</p> <p>6 補語、助動詞</p> <p>7 受動、使役、感嘆、命令文など</p>			
		<p><b>3.使用教材</b></p> <p>加治敏之・孫路易『システムティック中国語（初級読本）』（郁文堂）Web 上に関連資料を置くので参照してほしい。</p>			
		<p><b>4.履修上の注意事項</b></p> <p>辞書・参考書については図書館発行「授業ガイド」を利用すること。</p>			



科目名	歴史学Ⅰ			視聴日	9/1	夏学期
担当教員	荻野 富士夫			募集人数	10名	
開講時間	9/1-9/8 (P8 参照)	教室	未定	受講料	9,200円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正デモクラシー期の女性</li> <li>・戦時下の女性</li> <li>・山本宣治と産児制限</li> <li>・国防婦人会</li> <li>・戦後の女性</li> <li>・手塚治虫のめざしたもの</li> <li>・鎌田慧の描いたもの</li> </ul>		
<p>日本の近現代史全般を対象として、受験や「教科書で教えられなかった歴史」に焦点をあてる。下記のような一見、国家や政治などとはかけ離れたテーマを取りあげるが、それらの思想や活動も深く歴史の進展と結びついていたことを明らかにし、歴史に学ぶことの必要と楽しさを考えたい。一週一テーマの講義形式となる。</p>				<b>3.使用教材</b>		
<b>2.授業内容</b>				<p>毎回プリント教材を配布するほか、テーマごとに参考文献を紹介する。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つの開国（コレラ）</li> <li>・「万歳」の誕生</li> <li>・日本の軍隊</li> <li>・移民と排日</li> <li>・角田柳作（アメリカにおける日本研究開拓）</li> <li>・明治国家と女性</li> </ul>				<b>4.履修上の注意事項</b>		

科目名	心理学Ⅱ			視聴日	9/9	夏学期
担当教員	杉山 成			募集人数	若干名	
開講時間	9/9-9/16 (P8 参照)	教室	未定	受講料	9,200円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<p>3. パーソナリティの測定 : 心理テストの形式と要件・テスト実習</p> <p>4. 人間関係の発展 : 対人魅力・人間関係の段階モデル</p> <p>5. コミュニケーション : 積極的傾聴の方法・対人葛藤の解決</p> <p>6. メンタルヘルス : ストレスのコントロール・精神疾患の理解</p> <p>7. ライフサイクルと適応 : ライフサイクル理論・キャリア開発</p>		
<p>基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学Ⅱでは、パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に、考え方や行動の個人差と心理的適応の関連について解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて心理テストの実習やグループワーク等も行う予定です。本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。</p> <p>1. 心理学的観点を身につけることによって、主観や直感とは違った観点から自己を洞察する。</p> <p>2. 心理的適応のメカニズムへの理解を通して、現代社会におけるたくましい生き方について考える。</p>				<b>3.使用教材</b>		
<b>2.授業内容</b>				<p>教科書は使用せず、適宜参考文献を紹介します。また、資料プリントを配布します。</p>		
<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. パーソナリティの理論 : 自分を知ること・類型論と特性論</p>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
				<p>基本的な受講マナー（遅刻をしない、私語をしない、教室内を歩き回らない、携帯電話を使用しないなど）を守れない学生の受講は禁じます。</p>		

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	社会思想史Ⅱ			ガイダンス日	10/3	後期
担当教員	西永 亮			募集人数	若干名	
開講時間	月曜 6 講	教室	470	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 本科目は、「文明 civilization」と「文化 culture」の対立というドイツ思想に特有の認識枠組みを軸に、20 世紀の社会思想的展開を概観します。20 世紀の西洋において「文明」と「文化」は、実際の社会問題と関連しながら、ときには相互に対立しあう概念として、またときにはほぼ同義の概念として発展してきました。講義では、両者の対立に重点をおき、重要な思想家を何人か取りあげながら、両概念がどのような社会的意味を担ってきたのかを解説します。それを通じて、21 世紀における「文明」と「文化」の意義を批判的に分析する力を養います。				<b>II 多文化主義の諸相</b> II-1 解放の原理としてのナショナリズム -バーリン- II-2 ケベック問題をめぐる承認と差異の政治 -Ch. テイラー- II-3 移民問題における憲法愛国主義 -ハーバーマス-		
<b>2.授業内容</b> はじめに 文明と文化、普遍と特殊、平等と自由 I 文明の崩壊——20 世紀の幕開け I-1 文化戦争としての第一次世界大戦 -ジンメルと Th. マン- I-2 文化革命としてのロシア革命 -ルカーチ- I-3 啓蒙の弁証法 -ホルクハイマー、アドルノ、エリアス-				<b>3.使用教材</b> なし。プリントを配付します。参考文献は適宜紹介します。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 配布プリント、板書、および講義を素材にして自分のノートをつくること。安易な解答を期待せず、自分で粘り強く考える姿勢が不可欠です。		

科目名	経済法			ガイダンス日	10/3	後期
担当教員	岡本 直貴			募集人数	制限なし	
開講時間	月曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 「経済法」とは、経済・競争政策に関わる法規群の総称です。この講義では、経済法領域の中心とされる「独占禁止法」を主として取り上げることにします。独占禁止法の全体像を把握し、基本的な知識を習得することが、目標となります。 近年、市場における「競争」の重要性が強く意識され、カルテル・入札談合など企業が競争を阻害する事件が、社会的耳目を集めています。そこで講義では、独占禁止法の判決・審決例のみならず最新の動向にも触れながら、具体的な法運用を検討します。関連する法規（下請法、景品表示法、官製談合防止法など）も必要に応じて取り上げることにします。				<b>2.授業内容</b> 講義内容は、概ね以下のとおりです。講義初日に、より詳細な講義計画を配布します。		
				(1) 経済法の基本概念 (2) 不当な取引制限 (3) 私的独占 (4) 企業結合 (5) 不公正な取引方法 (6) 法の執行・実現		
				<b>3.使用教材</b> ・岸井大太郎＝向田直範＝和田健夫＝内田耕作＝稗貫俊文『経済法〔第6版〕－独占禁止法と競争政策－』（有斐閣アルマ、2010年） ・舟田正之＝金井貴嗣＝泉水文雄編『経済法判例・審決百選』（有斐閣、2010年）		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 六法（最新のもの）は必携です。		

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	経営学原理			ガイダンス日	10/3	後期
担当教員	小田 福男			募集人数	5名	
開講時間	月曜 7 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>2.授業内容</b>		
<p>この科目は経営学関連科目の中で基礎的な科目として位置付けられています。そこで、経営学に関する基礎的な知識を体系的に講義します。わが国で最も普及している経営学教科書の一つである『ゼミナール経営学入門』を利用して、経営戦略を中心に「経営環境のマネジメント」を講義します。</p> <p>プロジェクターを利用して講義を実施します。なお、受講人数を考慮しつつ、双方向型の授業方法を取り入れる予定です。</p> <p>本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は、経営学の「経営環境のマネジメント」部分についての基礎的知識にもとづいて現実を分析する能力です。</p>				<p>「経営環境のマネジメント」</p> <p>第1章 戦略とは何か</p> <p>第2章 競争のための差別化</p> <p>第2章 競争優位とビジネスシステム</p> <p>第3章 多角化と事業ポートフォリオ</p> <p>第4章 企業構造の再編成</p> <p>第5章 国際化の戦略</p>		
				<b>3.使用教材</b>		
				<p>教科書：『ゼミナール経営学入門[第3版]』（伊丹敬之・加護野忠男著、日本経済新聞社、2003年）</p> <p>参考文献：『経営戦略の論理(第3版)』（伊丹敬之著、日本経済新聞社、2003年）その他。</p>		
				<b>4.履修上の注意事項</b>		
				積極的な授業参加を期待します。		

科目名	情報処理基礎			ガイダンス日	10/3	後期
担当教員	木村 泰知			募集人数	制限なし	
開講時間	月曜 7 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>近年、情報化が進み、私たちの生活にコンピュータ、携帯電話、インターネットなどが身近な存在となっている。これらは情報処理技術が基礎となっており、講義ではそれらのしくみを理解することを目的とする。</p>				<p>情報学入門—大学で学ぶ情報科学・情報活用・情報社会</p> <p>大内 東・岡部 成玄・栗原 正仁【編著】</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報社会について</li> <li>・ 生活と情報化</li> <li>・ データ管理と表現</li> <li>・ デジタル表現</li> <li>・ コンピュータの構成</li> <li>・ アルゴリズムとプログラミングの基礎</li> <li>・ コンピュータネットワークのしくみ</li> </ul>						



### Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	国際市場論			ガイダンス日	10/4	後期
担当教員	穴沢 眞			募集人数	5名	
開講時間	火曜 6 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<p>我が国企業の多国籍化が進むなか、企業内部で様々な変化が起こるとともに、受入国や進出先の地場企業などにも変化が起きています。この講義では多国籍企業に焦点を当て、これらの企業の進出が特に受入国に与える影響について検討を加えます。</p> <p>講義形式の部分は少なくし、ディスカッションや報告に時間を割く予定です。知識を習得するだけでなく、自分で考え、自らの答えを出す能力を高めることに重きを置きます。最終的には履修者数を見て、授業の進め方の詳細を決めます。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<p>テキストをもとに進めていきますが、テキストをただ読むだけではなく、議論のためのきっかけとします。また、基本的な事項については解説を加えます。主な内容は以下の通りです。</p>		
				<p>1 発展途上国の工業化と多国籍企業 2 多国籍企業と地場企業の比較 3 自由貿易地区、経済特区の活用 4 輸出指向の多国籍企業のネットワーク 5 地場企業との合弁 6 多国籍企業の受入国への貢献</p>		
				<p><b>3.使用教材</b> テキストは以下のものを使います。 穴沢眞『発展途上国の工業化と多国籍企業』文真堂、2010年 その他に新聞の記事などの教材を適宜、配布します。</p>		
				<p><b>4.履修上の注意事項</b> 履修者数をもとに授業形態を修正するので、オリエンテーションには必ず出席して下さい。その際に、授業の詳細について改めて説明します。グループによる報告などを想定しています。</p>		

科目名	国際取引法			ガイダンス日	10/4	後期
担当教員	中村 秀雄			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 6 講	教室	213	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<p>国際取引は国内取引と種々の点で異なる。法律面でも同様である。授業では国際取引契約法を学ぶ。</p> <p>理論のみならず、モデル売買取引を設定したうえで、どのような形で国際取引がなされるかを、実践的にも勉強する。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<p>①「小樽商会在外国の会社に機械を売却する」という取引モデルに従って、国際取引はどのように行われるか、契約書がどのように作られていくのかを学ぶ。</p> <p>②日本でも2009年8月から発効した、通称「ウィーン売買条約」にも簡単に触れる。</p> <p>③オリエンテーション時に授業計画を配付する。</p>		
				<p><b>3.使用教材</b> 中村秀雄 『国際動産売買契約法入門』（有斐閣、2008）</p>		
				<p><b>4.履修上の注意事項</b> 国際取引に関心を持って、「自分が商人ならどう行動するか」を常に考えて授業にのぞんでほしい。「正しい答」より、「自分で考えた答」をもつことを期待する。</p> <p>履修名簿に従って指名して意見を述べてもらうので、出席することが重要である。但し出席は取らない。</p>		

科目名	計画科学			ガイダンス日	10/4	後期
担当教員	石井 利昌			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 6 講	教室	401	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>2.授業内容</b>		
<p>本科目では、オペレーションズ・リサーチの一分野である組合せ最適化問題からいくつかのテーマを取り上げ、問題の特徴やその解法(アルゴリズム)について講義を行う。</p> <p>組合せ最適化問題とは、与えられた条件を満たす組合せの中から最良の組合せを求める問題であり、スケジューリング、配送計画、ネットワーク設計、経路探索、生産計画などその応用範囲は広い。</p> <p>授業方法は、基本的には講義形式で、授業内容の提示に情報機器(プロジェクタ)を主に利用する。また、各テーマ毎に演習問題を課す予定である。</p> <p>本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。</p> <p>(i) 効率的なアルゴリズムとは何か説明できる。</p> <p>(ii) 代表的な組合せ最適化問題とそのアルゴリズムについて、説明できる。</p>				<p>● 組合せ最適化問題とアルゴリズム (イントロ)</p> <p>● 線形計画問題</p> <p>● グラフ・ネットワーク問題</p> <p>● 割当問題</p> <p>● ナップサック問題</p> <p>など</p> <p><b>3.使用教材</b></p> <p>&lt;テキスト&gt;なし</p> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>「組合せ最適化[短編集]」久保幹雄, 松井知己著, 朝倉書店</p> <p>「組合せ最適化とアルゴリズム」久保幹雄著, 共立出版</p> <p>「情報学のための離散数学」茨木俊秀 著, 昭晃堂</p> <p><b>4.履修上の注意事項</b></p> <p>授業内で演習課題を出すので, A4 のレポート用紙を持参すること。</p>		

科目名	基礎数学			ガイダンス日	10/4	後期
担当教員	兼岩 龍二			募集人数	若干名	
開講時間	火曜 7 講	教室	104	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>4.述語・対象領域</b>		
<p>本講は基礎科目、知の基礎系に属し、本学全学生に必要とされる「論理的思考」の手助けとなるように、数理論理学の分野から、命題論理と述語論理を紹介する。</p> <p>上記は人間が物事を考えるための補助手段となるであろう。より直接的には、現代社会に於いて益々必要度を増して来ている情報分野の基礎的認識を得るためや、「文科系」と言われる諸科学のなかでもよく使われるようになりつつある現代数学を理解するための、必須のツールとなるであろう。</p>				<p>5.全称・存在記号</p> <p>6.自由変数・束縛変数</p> <p>7.公理系(述語論理)・証明論</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>1.論理記号(命題論理)</p> <p>2.論理関数</p> <p>3.公理系(命題論理)・証明論</p>				<p>配布プリントを使う。</p> <p><b>4.履修上の注意事項</b></p> <p>高等学校では、ほとんどまったく扱われない分野なので、高等学校の数学が不得意でも、ついていくことができるが、出席を怠ると全くわからなくなるので、注意すること。</p>		

科目名	行政法 I			ガイダンス日	10/4	後期
担当教員	石黒 匡人			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 7 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>行政法とは「行政に特殊固有の法」であると定義されることもある。</p> <p>行政法学の基礎と重要問題を講義することによって、その「特殊固有な」法とはいかなるものか理解してもらおうことを目的として、具体的な事例をできるだけとりあげながら、進めていく。</p>				<p>いずれかの六法。</p> <p>参考書は講義の際に紹介する。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序論</li> <li>2 行政法の基本原理</li> <li>3 行政の作用</li> <li>4 行政手続</li> <li>5 国家補償</li> <li>6 行政争訟</li> </ol>				<p>講義時間と同じ時間の予習と復習が前提になっていることを理解のうえで、履修すること。『学園生活の手びき』中の「単位の計算方法」参照</p> <p>過去の履修者の傾向から判断すると、他の法律科目を履修していないと、理解が難しい。定期試験の解答については、鉛筆・シャープペンシルによることは認めない。</p> <p>第 1 回目の講義の際に行うガイダンスを必ず聞いたうえで履修を決定すること。</p>		

科目名	哲学			ガイダンス日	10/5	後期
担当教員	久保田 颯二			募集人数	5 名	
開講時間	水曜 6 講	教室	105	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>哲学への入門講義であり、当該分野にかかわる必要最小限の基本的な諸概念を習得していただくことを目的としています。なお、ただ「哲学」とのみ言うときは、一般に、東洋のものやインドのものを除いた「西洋哲学」だけを意味します。したがって、この講義でも基本的に西洋哲学だけが話題となります。</p> <p>全体は、哲学の学問的特徴を論ずる前段の議論（(1)～(2)）と、哲学の歴史を時代順に解説する後段の議論（(3)～(7)）とから成ります。後者については、今年度は、古代ギリシアにおける哲学の発祥から始め、その時代における哲学の黄金期までをたどります。近現代を含むそれ以外の時代の哲学についても、可能な範囲で、適宜言及していきたいと考えます。</p>				<ol style="list-style-type: none"> <li>(4) ソクラテス以前の哲学Ⅱ—存在と生成をめぐる対立—</li> <li>(5) ソフィストたちの思想</li> <li>(6) ソクラテスとプラトン</li> <li>(7) アリストテレス</li> </ol>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 序論—哲学とはいかなる学問であるか—</li> <li>(2) 哲学史の時代区分</li> <li>(3) ソクラテス以前の哲学Ⅰ—ピュタゴラス学派ほか—</li> </ol>				<p>テキストは使用しませんが、参考文献を随時紹介し、また、原典邦訳の抜粋などを資料として配布します。</p> <p>断片的で雑学的な「知識」を身に付けようとするによりも、むしろ、思想的な内容を知的に把握したり、思想発展のダイナミズムを捉えたりすることのほうに、より大きな関心を向けていただきたいと思います。</p> <p>分野の性格上、一つ一つの事項の説明に手間取ることが間々あるので、もしかすると、シラバスで予定したテーマのすべてをこなすことはできないかもしれません。</p>		

科目名	社会学Ⅰ			ガイダンス日	10/5	後期
担当教員	宝福 則子			募集人数	若干名	
開講時間	水曜 6 講	教室	104	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>「環境」をテーマに、社会学としてどのように環境問題を扱うか、その手法を学ぶ。現在、世界・日本で起こっている諸環境破壊の実態とその諸要因を認識する。ここでは、私たち自身が手を貸している身近な環境破壊について考える契機として「観光」についても特に考えてみたい。「グローバリズム」「円高」等のキーワードとともに、経済的な側面からも要因を探る。環境再生への可能性について、現在とられている政治・経済的な政策等についても吟味する。</p>				<p>飯島伸子『環境問題の社会学』有斐閣 ロビン・コーエン、ポール・ケネディ『グローバル・ソシオロジーⅠ・Ⅱ』平凡社 2006年(第3刷)・2004年(第2刷)</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」の定義</li> <li>・「環境破壊」の実態と諸要因：森林破壊の諸要因としての農業、ツーリズム等</li> <li>・経済のグローバル化と国境を越えた「環境対策」：検証 — 排出権取引：環境がお金になる！</li> </ul>				<p>3.の使用教材は、特に教科書として指定しないが、参考書として読むことを薦める。その他にも随時、テーマ毎に参考書を挙げる。また、現在の社会を知るためにも、新聞を読むことを薦める。</p>		

科目名	市場システム論Ⅱ			ガイダンス日	10/5	後期
担当教員	近藤 公彦			募集人数	5 名	
開講時間	水曜 7 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>市場システム論Ⅱでは、実際の企業のケース(事例)を題材として、企業の強み・弱み、その企業を取り巻く環境の機会・脅威を分析し、戦略的課題を明らかにし、どのような戦略を取るべきかを考えます。ケース・メソッドと呼ばれるこの方法は、ビジネススクール(MBA)を取得できる大学院課程)で通常行われているもので、ケースから「正解を探す」のではなく、分析とディスカッションを通じて「正解を創る」のがケース・メソッドの醍醐味です。本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は次の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケースを論理的に分析できる能力</li> <li>・ 分析を踏まえて最適な戦略を立案する能力</li> <li>・ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力</li> </ul>				<p>取り上げるケースとしては、自動車メーカー、家電メーカー、精密機器メーカー、日用品メーカー、化粧品メーカー、流通・小売など、皆さんに馴染みのある企業を予定しています。</p> <p>皆さんには、授業の事前課題として、ケースを熟読し、分析し、各自の「正解」を用意してこること、事後課題として、授業でのグループ・ディスカッションと全体ディスカッションを踏まえて、個人でケース・レポートを作成・提出することが求められます。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<p>授業は学生間、学生と教員間のディスカッション形式で行います。まず、学生をグループに分けて、グループ内でケースの課題をディスカッションし、グループとしての意見をまとめていただきます。つづく全体ディスカッションでは、グループの分析と戦略をプレゼンテーションしてもらったとともに、他のグループの意見に対してコメントしていただきます。</p>				<p>授業で取り上げるケースはコピーの上、配布します。また適宜、次の文献を使用します。小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析(改訂版)』2010年、同文館出版。</p> <p>事前課題、ディスカッションへの参加、事後課題と、授業には相応の負担が必要です。決して楽な授業ではありませんが、ディスカッションと戦略立案の擬似的体験はきっとエキサイティングなものとなるでしょう。論理的な思考と創造性を駆使してケースに立ち向かってください。</p>		

科目名	経営管理論			ガイダンス日	10/5	後期
担当教員	加賀田 和弘			募集人数	5名	
開講時間	水曜 7 講	教室	303	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>2.授業内容</b>		
<p>経営管理とは、企業がその目的を達成するために行う、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を、いかに調達・配分・組み合わせ・統合するかに関する様々な意思決定とその活動のことである。</p> <p>授業の目的：本講義では、なかでも「ヒト」、特にその「協働体」としての「組織」に注目し、組織を形成・協働させ、活性化するための手法と経営者・管理者の役割について分析・考察する。またこれらを通じて、今日の組織をめぐる経営管理のあり方や課題について考察することを副次的目的とする。</p> <p>方法：授業は講義形式とするが、3 回程度グループ・ディスカッションを行うことも考えている。</p>				<p>(以下は、進行状況等に応じて変更する場合があります。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営管理論基礎</li> <li>・ 組織と個人</li> <li>・ 組織構造</li> <li>・ 動機付け</li> <li>・ 経営理念と組織文化</li> <li>・ グループ・ディスカッション</li> </ul>		
<b>3.使用教材</b>				<p>教科書として、『ゼミナール経営学入門[第3版]』（伊丹敬之・加護野忠男著,日本経済新聞社, 2003 年) 第Ⅱ部「組織のマネジメント」を使用。</p>		
<b>4.履修上の注意事項</b>				<p>教科書はなるべく購入すること。</p>		

科目名	言語学			ガイダンス日	10/6	後期
担当教員	山田 久就			募集人数	若干名	
開講時間	木曜 6 講	教室	407	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>3.使用教材</b>		
<p>人間のことば（言語）を研究する学問を言語学と呼びます。言語学には広範な研究分野がありますが、言語学の基本であり、最も研究が盛んな分野は文法研究です。文法研究では、個別の言語の文法とともに、世界の諸言語の文法における多様性と一般性・普遍性が研究の対象になります。文法研究の各分野における研究対象（どのようなことに関心が持たれるのか）と研究方法（どのように研究するのか）について学びます。</p>				<p>基本的には、コンピュータ画面をスクリーンに投射したものを主教材とします。</p> <p>参考資料として、プリントを配布します。一部を除き、配布したプリントは最後に示すサイトに pdf ファイルで置きます。</p>		
<b>2.授業内容</b>				<b>4.履修上の注意事項</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語と言語学</li> <li>・ 世界の言語</li> <li>・ 音声学と音韻論（音についての研究）</li> <li>・ 形態論（語のしくみについての研究）</li> <li>・ 統語論（文のしくみについての研究）</li> </ul>				<p>より具体的な情報を下記のサイトに載せているので、参考にしてください。</p> <p>サイト：(学内からのみアクセス可)</p> <p><a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/linguistics">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/linguistics</a></p>		



科目名	法学			ガイダンス日	10/6	後期
担当教員	多木 誠一郎			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> (目的) 法学が対象している法を、私たちが日常生活において意識することはあまりないと思いますが、実は重要な役割を果たしています。朝起きてから夜寝るまでに皆さんは色々な行動をしますが、意識するしないにかかわらず、法が密接に関わっています。行動の多くが、法的にみて何らかの意味があることです。 本科目の履修を通じて、上記のような法と日常生活の密接な関わりを考えていくことをきっかけにして、法学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。 (方法) 指定する教材にできるだけ沿って担当教員が解説する形で、授業を進めていきます。上記目的を達成するために、できるだけ日常生活に即した事例を参照しながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。				<b>2.授業内容</b> ・日常生活上の色々な約束 ・日常生活上のアクシデントに係る法 ・家族関係に係る法 ・企業に係る法 ・雇用に係る法 ・紛争の解決に係る法 <b>3.使用教材</b> 夏休み中に掲示します。 <b>4.履修上の注意事項</b> コツコツと地道に勉強していきましょう。		

科目名	コンピュータネットワーク論			ガイダンス日	10/6	後期
担当教員	三谷和史			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	401	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 目的：インターネットで一躍有名となったコンピュータネットワークを、その基礎の部分から応用まで、なぜそうなっているのかという技術的視点から考えながら理解することを目的とする。さらに、この理解の基盤の上で、コンピュータネットワークをどのように利用、維持、発展させていくべきかを自ら考える力を養う。 内容：通信の基礎からデータリンク、イーサネットに代表される LAN,そして IP,TCPといったネットワークプロトコル、経路制御や DNS 等の基本的アプリケーション,WWW 等の応用アプリケーション、セキュリティ等について解説を行なう。 方法：講義によって行なう。 本科目の履修を通じて獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。 ・コンピュータネットワークを構成する技術の理解と利用に関する理解				<b>2.授業内容</b> 講義の進み具合により多少の増減があるが、以下の予定である。 イントロダクション、情報理論の基礎、デジタルとアナログ、符号理論の基礎、変調と多重化、通信の基礎、OSI と Ethernet、データリンク層・BISYNC, HDLC, X.25, ATM, PPP, PPPoE、Ethernet, IEEE802 詳細、Internet Protocol (IP)、経路制御、Transmission Control Potocol (TCP)、インターネットの歴史、DNS と応用アプリケーション、ネットワークセキュリティ。 <b>3.使用教材</b> 教科書は特に定めないが、参考書としては、村井純「インターネット」「インターネット II」「インターネット新世代」(岩波新書)、ジョン・M. ダヴィッドソン「はやわかり TCP/IP」(共立出版)を挙げておく。 講義には power point を使用する。 Web page に講義のまとめを置く予定である。 <b>4.履修上の注意事項</b> ・技術的な内容についての事前の準備は特に求めない。インターネットの利用者として、社会的に話題となるようなネットか関係の問題について、関心を持っていることが望ましい。		

科目名	商法Ⅱ	ガイダンス日	10/6	後期	
担当教員	河森 計二	募集人数	制限なし		
開講時間	木曜 7 講	教室	401		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b> この講義では、商法総則・商行為法を取り扱います。 このうち商法総則では、商法全体に関わる最も基本的な事柄を学び、商行為法（保険契約を含む。）では、企業活動としての商行為を具体的な事例を通じて、基礎的知識の修得を目的とします。なお、この授業では Power Point を使用します。 本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。 ・商法全体にかかわる基本的な概念を理解し自分の言葉で説明できる。 ・商行為に関する具体的な事例の論点を自分の言葉で説明できる。		<b>3.使用教材</b> <b>(1)教科書</b> ・落合誠一=大塚龍児=山下友信(著)『商法Ⅰ－総則・商行為(S シーズ) [第 4 版]』(有斐閣、2009 年) <b>(2)参考文献</b> ・江頭憲治郎=山下友信(編)『商法 (総則・商行為) 判例百選 [第 5 版]』(有斐閣、2008 年) ・山下友信=洲崎博史(編)『保険法判例百選』(有斐閣、2010 年)			
<b>2.授業内容</b> 授業の内容の概略は次のとおりです。 I.商法総則 商行為と商人、商業登記、商号、営業、営業の補助者 II.商行為法 商行為法総則、商事売買、種々の営業、保険契約		<b>4.履修上の注意事項</b> 教科書、最新の六法は毎回必ず持参してください。 その他、詳細については、初回講義時のガイダンスでお話します。			

科目名	知識科学基礎	ガイダンス日	10/6	後期	
担当教員	芳澤 聡	募集人数	制限なし		
開講時間	木曜 7 講	教室	407		受講料
<b>1.授業の目的・方法</b> 記憶と学習、および脳科学の知見から人間の脳の情報処理を理解する。次に、脳を模した工学モデル、及び認知科学モデルを学習し、コンピュータを用いたシミュレーションを通してその動作を確認する。 また、機械学習の基礎となるパターン認識の手法を紹介する。		<b>2.授業内容</b> ・記憶と脳 ・脳の構造 ・工学モデル(アソシアトロン、パーセプトロン、相互結合型ネットワークモデル) ・認知科学モデル(意味ネットワーク、推論モデル) ・パターン認識			
		<b>3.使用教材</b> 「思考と脳」、渡邊正孝、サイエンス社、2005、ISBN4-7819-1107-2 他に参考文献を適宜示す。			
		<b>4.履修上の注意事項</b>			

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

科目名	国際法			ガイダンス日	10/7	後期
担当教員	佐古田 彰			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 6 講	教室	303	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> 国際法は、主権国家が並存する国際社会に妥当する法である。つまり、国際法は、それぞれの国家が自国の国益をぎりぎりまで追求し自国の持つあらゆる力をぶつけ合った結果として国家が納得つくの上で作り上げた法であって、決して空理空論でもなく、また必ずしも人類の理想を示しているわけでもなく、まさに国際社会の現実を反映した法である。 本講では、そのような国際法の特徴や考え方について、判例や具体的な事例を取り上げながら、海洋法、国際経済法、国際刑事法、国際人権法、宇宙法といった国際法の各論を素材にして、説明する。受講者は、現実の国際社会における国際法の機能・有用性とその限界を理解してもらいたい。				【3】領域・空間の区分による国家管轄権の法構造 一 国家管轄権の意義 二 国家領域 三 海洋の区分 四 国際河川・国際運河・南極 五 空域・宇宙空間		
<b>2.授業内容</b> 【1】総論 一 国際法と国際社会 二 国際法の法源 三 国際法の主体 四 国際法と国内法 【2】国際法秩序の維持と確保 一 国際責任 二 国際紛争の平和的解決 三 国際の平和と安全の維持				<b>3.使用教材</b> 条約集：杉原高嶺編『コンサイス条約集』三省堂 松井芳郎ほか『国際法（有斐閣Sシリーズ）』有斐閣 条約集と六法（小さいものでよい）は必ず持ってくること。 なお、古い条約集・教科書・判例集でも構わない。		
				<b>4.履修上の注意事項</b> 「2. 授業内容」で記した【3】は時間の余裕があれば行う。 最初の時間（オリエンテーション）で授業を行うので、条約集と教科書を持ってくること。 この授業は出席重視である。		

科目名	統計科学			ガイダンス日	10/7	後期
担当教員	小笠原 春彦			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b> トピックスは統計学を中心とする統計的推定・検定である。統計的推定とは限られた情報（標本）から真の値（母集団）を確率の指標とともに求める方法であり、検定とはデータから得られる結論の正しさを確率により判断する方法である。				（6）ノンパラメトリック検定、順位和とその分布 （7）分散分析一元配置モデル・分散分析表、平方和の期待値 （8）自由度と検定統計量 （9）分散分析二元配置モデル・分散分析表 （10）要因の交互作用 （11）アンバランス型データの処理		
<b>2.授業内容</b> （1）授業のねらい、計量的方法の意義と導入 （2）仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説、 $p$ 値と危険率、両側検定と片側検定、2種の誤り （3）平均の検定（分散既知）と正規分布 （4）スチューデント化統計量と $t$ 分布 （5）分散の検定とカイ自乗分布、等分散の検定と $F$ 分布				<b>3.使用教材</b> スライドを使用する。		
				<b>4.履修上の注意事項</b>		



科目名	社会情報入門			ガイダンス日	10/7	後期
担当教員	阿部 孝太郎/中村 隆志			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 7 講	教室	104	受講料	9,200 円	
<b>1.授業の目的・方法</b>				<b>2.授業内容</b>		
<p>この授業は社会情報学科の専門領域への導入科目である。本学科の専門分野に関する基礎的な事項やトピックを解説することにより、2年次以降で学ぶことの概要について理解してもらうことを目的とする。前半は阿部、後半は中村が担当する。</p> <p>前半は、社会情報学の文科系的な部分について紹介する。たとえば情報化によって組織や社会はどうなるのか、あるいはIT企業と地域社会との関わりはどのようなものか、といった問題について、映画・ビデオ等を用いながら、できるだけ初学者にもわかるように解説する。</p> <p>後半は、社会現象を対象に科学的方法論により最適な答えを導き、意思決定を支援する手法であるオペレーションズ・リサーチの入門である。平易な例題を用い、オペレーションズ・リサーチの考え方や各種手法について講義する。数式等を用いるが、高校レベルの数学的知識で十分に理解できるように努める。</p>				<p>[前半]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ITと企業--アップルとマイクロソフトを中心に</li> <li>2) 情報技術と地域社会--シリコンバレーを中心に</li> <li>3) 官僚制と日本型組織</li> <li>4) ピーター・ドラッカーと情報化組織</li> <li>5) IT革命の理想と現実</li> <li>6) ネット上のコミュニケーション</li> </ol> <p>[後半]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オペレーションズ・リサーチの概要と歴史</li> <li>2) 線形計画法</li> <li>3) 階層化意思決定法 (AHP)</li> <li>4) 不確実な現象と確率</li> <li>5) 待ち行列理論</li> <li>6) シミュレーション</li> </ol>		
				<b>3.使用教材</b>		
				[前半] ビデオの他、プリントを配布する。 [後半] プリントを配布する。		
				<b>4.履修上の注意事項</b>		

**2011 年度 小樽商科大学 公開講座・公開授業 申込書**

平成 23 年 月 日

公開授業の後期科目は 10 月 3 日～10 月 14 日にお申込みください。

講座 (科目)名		受講料	円
-------------	--	-----	---

フリガナ		性別	男 ・ 女
氏 名		年齢	
現住所	〒 -		
連絡先	電話番号(自宅又は携帯番号)		
	E-mailアドレス		
職 業	会社員 ・ 公務員 ・ 教員 ・ 自営業 ・ 主婦 ・ 学生 ・ 無職 ・ その他( )		
車両登録 番 号			
	(記入例)札幌 530 れ 9999 お車で通学を希望される方は、車両番号を記載してください。		

は必須事項です。(連絡先は、連絡のつきやすいものをご記入ください。)

..... 切 取 線 .....

**2011 年度 小樽商科大学 公開講座・公開授業 申込書**

平成 23 年 月 日

公開授業の後期科目は 10 月 3 日～10 月 14 日にお申込みください。

講座 (科目)名		受講料	円
-------------	--	-----	---

フリガナ		性別	男 ・ 女
氏 名		年齢	
現住所	〒 -		
連絡先	電話番号(自宅又は携帯番号)		
	E-mailアドレス		
職 業	会社員 ・ 公務員 ・ 教員 ・ 自営業 ・ 主婦 ・ 学生 ・ 無職 ・ その他( )		
車両登録 番 号			
	(記入例)札幌 530 れ 9999 お車で通学を希望される方は、車両番号を記載してください。		

は必須事項です。(連絡先は、連絡のつきやすいものをご記入ください。)

切  
取  
線

切  
取  
線

## 平成 23 年度 行事予定

### 【前期】

- 4月 4日(月) 入学式
- 4月 6日(水) 前期授業開始
- 7月 7日(木) 創立記念日のため休講
- 7月 8日(金) 緑丘祭・緑宵祭のため休講
- 7月27日(水) 前期授業終了
- 7月27日(水) 木曜日分の補講日
- 7月28日(木)～8月 4日(木) 前期定期試験
- 8月 5日(金)～9月30日(金) 夏季休業
- 9月 1日(木)～9月 8日(木) 夏学期
- 9月 9日(金)～9月16日(金) 夏学期

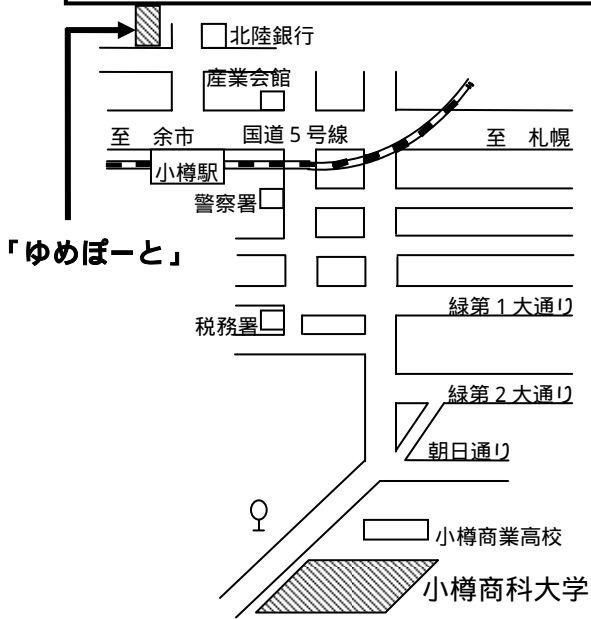
### 【後期】

- 10月 3日(月) 後期授業開始
- 12月23日(金)～1月10日(火) 冬季休業
- 1月13日(金) 臨時休業(センター試験の準備のため)
- 2月 7日(火) 後期授業終了
- 2月 7日(火) 金曜日分の補講日
- 2月8日(水)～2月16日(木) 後期定期試験

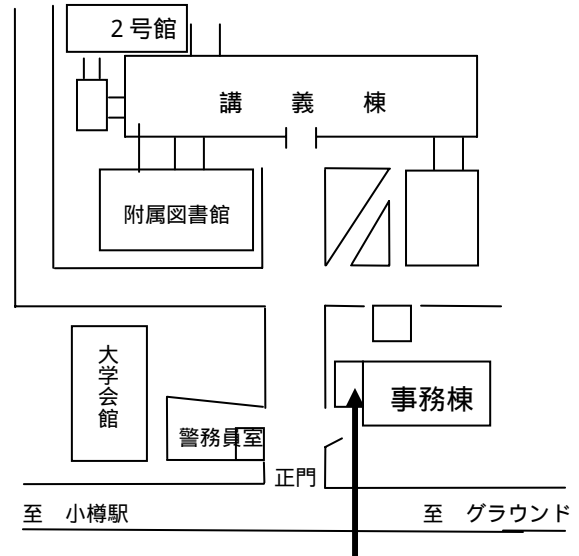
行事予定に変更があった場合は、掲示でお知らせしますので、掲示には十分注意してください。

おかげさまで小樽商大は  
2011年7月7日に創立100周年を迎えます  
これからも小樽商科大学をよろしく願っています

## 大学案内図

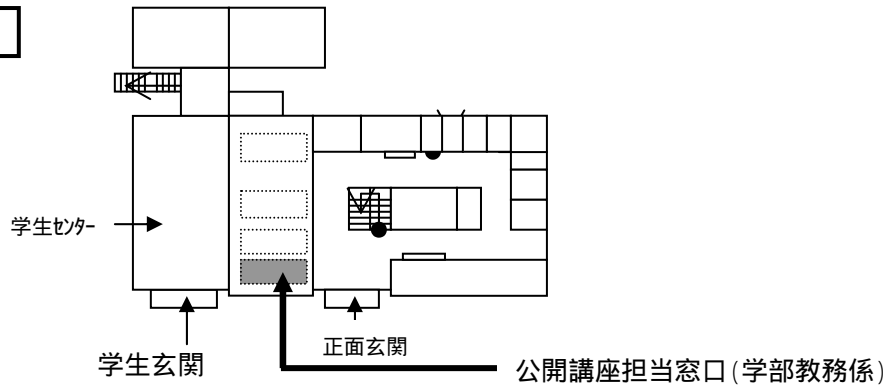


## 学内案内図



申込受付：学務課

## 事務棟1階



学生玄関からお入りください

## 小樽駅から小樽商科大学まで

小樽駅前JRバスターミナル乗り場3番より「小樽商大線(中央バス)」に乗車「小樽商大前」下車(この間約10分)。料金は210円。

小樽駅前からタクシーで約5分。料金は約800円。

小樽駅前から徒歩で約30分